

令和7（2025）年度

社会福祉法人 刀圭会

事業報告書

社会福祉法人 刀圭会

理事長 長谷川 賢

目次

[1] 法人本部	・ ・ ・ ・ ・	P 1
[2] そうび苑拠点	・ ・ ・ ・ ・	P 6
[3] にれの木拠点	・ ・ ・ ・ ・	P 8
[4] ななかまど拠点	・ ・ ・ ・ ・	P 10
[5] りんどう拠点	・ ・ ・ ・ ・	P 12

[1] 2025年度 法人本部 事業報告

令和7（2025）年度法人本部の会務の運営及び主な実施事業について次のとおり報告します。

1. 会務の運営

(1) 理事会の開催

第1回理事会（通算第149回）

- 1 日 時 令和7年 5月 28日（水）
- 2 場 所 社会福祉法人刀圭会 ななかまど 1階 多目的ホール
- 3 報告事項
 - ・理事長等の職務の執行状況報告について
 - ・令和6年度 第4四半期監事監査報告について
 - ・苦情・事故・ヒヤリハット報告について
- 4 審議事項
 - ・令和6年度 事業報告について
 - ・令和6年度 決算報告について
 - ・令和6年度 決算監事監査報告について
 - ・社会福祉法人刀圭会 理事の選任（案）について
 - ・社会福祉法人刀圭会 監事の選任（案）について
 - ・評議員選任・解任委員会について
 - ・評議委員選任・解任委員会に提案する次期評議委員候補者の推薦（案）について
 - ・定期評議員会の日時、場所、及び議題等の決定について

第2回理事会（通算第150回）

- 1 日 時 令和7年 6月 23日（月）
- 2 場 所 社会福祉法人刀圭会 ななかまど 1階 多目的ホール
- 3 報告事項
 - ・理事の選任報告について
 - ・監事の選任報告について
- 4 審議事項
 - ・理事長の選定について

第3回理事会（通算第151回）

- 1 日 時 令和7年 9月 16日（火）
- 2 場 所 社会福祉法人刀圭会 ななかまど 1階 多目的ホール
- 3 報告事項
 - ・理事長等の職務の執行状況報告について
 - ・令和7年度 第1四半期監事監査報告について
 - ・苦情・事故・ヒヤリハット報告について
 - ・えるぼし認定の取得報告について
 - ・北陸銀行 当座貸越利用による借入の報告について
 - ・定款変更 認可申請報告について
- 4 審議事項

- ・育児休業・介護休業等に関する規程の一部改正について
- ・就業規則の一部改正について
- ・社会福祉法人刀圭会 理事の追加選任（案）について
- ・評議員選任・解任委員会について
- ・評議員選任・解任委員会に提案する追加評議員候補者の推薦（案）について
- ・評議員会の日時、場所、及び議題等の決定について

第4回理事会（通算第152回）

1 日 時 令和8年 1月28日（水）

2 場 所 社会福祉法人刀圭会 ななかまど 1階 多目的ホール

3 報告事項

- ・理事長等の職務の執行状況報告について
- ・令和7年度 第2・第3四半期監事監査報告について
- ・苦情・事故・ヒヤリハット報告について
- ・北陸銀行 当座貸越利用による借入の報告について
- ・令和7年度 運営指導等の結果報告について

4 審議事項

- ・井田理事退任の意向について
- ・そうび苑・にれの木・ななかまど3施設 LED照明 切り替えについて
- ・令和7年度 介護ロボット導入支援事業について
- ・介護ロボット導入に伴う 資金の借入について

第5回理事会（通算第153回）

1 日 時 令和8年 3月30日（月）

2 場 所 社会福祉法人刀圭会 ななかまど 1階 多目的ホール

3 報告事項

- ・理事長等の職務の執行状況報告について
- ・苦情・事故・ヒヤリハット報告について
- ・令和7年度 運営指導等の結果報告について

4 審議事項

- ・令和8年度 事業計画（案）について
- ・令和8年度 資金収支予算（案）について
- ・施設長人事について
- ・社会福祉法人向け役員賠償責任保険の更新について

(2) 監事監査実施状況

第1回 令和7年 5月26日（木）

- ・会計経理、理事会、施設運営について

第2回 令和6年 5月31日

- ・令和5年度決算監査について

第3回 令和6年 8月27日

- ・会計経理、理事会、施設運営について

第4回 令和6年11月28日

・会計経理、理事会、施設運営について

第5回 令和8年 1月28日

・会計経理、理事会、施設運営について

(3) 評議員会の開催

第1回評議員会 (通算第95回)

1 日 時 令和7年 6月23日 (月)

2 場 所 社会福祉法人刀圭会 ななかまど 1階 多目的ホール

3 報告事項

- ・理事長等の職務の執行状況報告について
- ・苦情・事故・ヒヤリハット報告について

4 審議内容

- ・令和6年度 事業報告について
- ・令和6年度 決算報告について
- ・令和6年度 決算監事監査報告について
- ・定款変更について
- ・評議員選任・解任委員会報告について
- ・社会福祉法人刀圭会 理事の選任について
- ・社会福祉法人刀圭会 監事の選任について

2. 寄贈状況

令和7年 4月 3日	山下 かおる 様	法人の運営資金として	22,500円
令和7年 6月18日	NPO法人尚之基金 様	子ども食堂運転資金として	30,000円
令和7年 6月27日	表千家同門帯広地区会 様	子ども食堂運営資金として	15,000円
令和7年 6月30日	有限会社 高橋加工部 様	子ども食堂運営資金として	10,000円
令和7年10月30日	山下 かおる 様	法人の運営資金として	32,700円

3. 健康経営の取組状況

①HSP (ヘルスサポートプロジェクト) 通信の発行 年4回発行

「花粉症」

「熱中症と水分補給」

「喫煙について」

「くるみん認定取得によりできた特別休暇」

②職員研修・ヨガ

職員ヨガ 年間24回実施(8回中止) 通常:そうび苑開催

ななかまど開催:屋外1回実施

③健康経営の取組

育児休暇ハンドブック

- ・今年度は3名の職員へ配布。
- メンター制度
- ・育休復帰職員1名を1年間メンター制度にて面談

ベジチェック開催

- ・職員の「野菜摂取量」を機械で測定

妊活休暇

- ・1名利用

えるばし認定取得（令和7年6月24日）

4. 地域における公益的な取組 実践報告

①認知症カフェ（そうび苑）

毎月1回、年12回開催

②認知症カフェ（にれの木）

隔月開催、年4回開催

④足湯（そうび苑）

5月～10月末まで（土・日・祭日を除く）10:30～15:30
年間年間延べ利用者数 866名

⑤温泉無料開放（にれの木） 毎週日曜日 16:00～19:00

11月から開放 延べ利用者数 66名

⑦子ども食堂すまいる

年間 680名参加（子ども328名、大人247名、ボランティア105名）
（9月 屋外開催、悪天候のため中止）

⑧すまいるフードドライブin刀圭会

11月16日（日） 30食（豚丼弁当） 10世帯 配布

⑨出張出前講座

- ・令和7年 7月12日 帯広第一中学校 中学2年生対象
「認知症サポーター養成講座」 認知症キャラバンメイト
- ・令和7年 9月 9日 帯広西小学校 小学6年生対象
「認知症サポーター養成講座」 認知症キャラバンメイト
- ・令和7年10月27日 北栄福祉センター サロン参加者対象
「終活セミナー」
- ・令和7年11月19日 玄誓寺会館 お寺の檀家さんや鹿追町内の住民、鹿追町役場職員などが参加
「今を考える終活について」
- ・令和7年12月11日 帯広開西小学校 5年生対象
「認知症サポーター養成講座」 認知症キャラバンメイト

- ・令和8年 2月16日 西福祉センター サロン参加者対象

⑩出張ポッチャ

- ・令和7年 6月 5日 啓西福祉センター さわやか会 21名参加
- ・令和7年 8月28日 帯広市生活館ふくろうの館 わかば会 34名参加
- ・令和7年 9月26日 帯広市立広陽小学校 小学1年生※小学校と広陽地域老人会との交流の一部として参加
- ・令和7年10月 8日 啓北コミセン 北わかば会 北わかば会 16名参加
- ・令和7年11月26日 啓西福祉センター 啓西にこにこサロン 15名参加

⑪子供の居場所 にれっ子

学校への不登校など居場所に難しさを感じ、学習や体験が不十分な子供たちが増えている。そんな地域課題を地域住民、各団体と繋がりながら支えていく居場所づくりが出来ることを目標として活動。市内の小学生を対象に計3回実施。

- ・令和7年 8月 2日 絵はがき作り、ポップコーン作り、バリスタ体験
子ども20名、保護者8名、施設利用者5名参加（にれの木）
- ・令和7年 8月 3日 絵はがき作り、カラフル綿あめ作り、バリスタ体験
子ども23名、保護者17名（ななかまど）
- ・令和7年12月28日 英語で遊ぼう（外国人スタッフが講師となり遊びながら英語を学ぶ）
子ども8名、保護者4名参加

※その他、医療法人と合同の取り組み

- ⑫地域大規模防災訓練 ※水害による垂直避難を想定、グループ全施設、近隣町内会も参加
災害対策本部設置、各施設の被害状況報告訓練（ネットワーク構築）、非常電源確保（EV車より）、テント設営、トリアージ、消火訓練、防災講話等。

- ⑬地元建設会社防災訓練 刀圭会ブースを設置し、血圧測定と災害時エコノミー症候群予防体操実施。
また、そうび苑に救助隊を派遣し、震災時の救助支援の実演を合同で行った。

【2】2025年度 そうび苑拠点 事業報告

2025年度は、りんどうデイの休止に伴い利用者を受け入れ。利用者数・収入ともに概ね計画を達成。二拠点が一緒になったことで職員の成長にもつながった。「地域の入り口」としての取り組みを継続し、子ども食堂や認知症カフェの活動が地域に定着した。さらに、全道大会への挑戦、全国大会での優秀賞受賞と、高みを目指して大いなる成長を遂げることができた。

1. 「地域の入り口」としての役割の明確化

1) 町内会との連携を継続し、地域高齢者の支援強化

⇒ 地域の盆踊り・防災訓練・カラオケ会に施設貸し出しなど、かかわりを持つ機会が取れた。

2) 子ども食堂、認知症カフェのさらなる活性化

⇒ 多くのボランティアの協力参加。墓じまい・部屋の片づけ企画など、本部と終活につながる活動にも参加。参加者にも好評を得ている。

3) ケアハウス入居者が活躍できる仕組みの拡充

⇒ 苑外清掃、園芸など興味のある方は参加。出来ること、コロナ前にしていた施設へのボランティアなども継続して提案していけたらと思う。

4) 法人内サービスの認知向上に向けた取り組み

⇒ ブログにより季節の行事などを発信。SNSでは職員の魅力を発信。

2. 業務効率化と経営基盤の強化

1) 業務分担の運用強化と、柔軟な役割分担の推進

⇒ りんどうデイ休止後、職員三名そうび苑デイに移動。ほとんどが支援のそうび苑は慣れない介護の戸惑いもある中、学ぶことが多く時間をかけてすり合わせ行く部分が早まった移動、退職が続き役割を全うできなかった。

2) 日常業務の定期的な見直しと時間外削減の継続

⇒ 時間外勤務削減に向け、申請ルール of 明文化と業務配分の見直しを行い、昨年度に引き続き一定の成果をあげた。

3) 入所49.8名、通所28名、訪問29名の目標達成

結果) 入所：50名（達成） 通所：29.9名（達成） 訪問：29名（達成）

⇒ 入退居がスムーズに行えた。通所は徐々に登録を増やし目標(30)達成する月あり。訪問は休みが入ると空いた時間も無駄にせず稼働を入れていた。

4) 通所サービスの差別化を受け入れ態勢の安定化

⇒ りんどうデイからの移行者も問題なく受け入れ完了。個別レクに特化し

たサービスを徐々に展開し7月には完了。

3. 人間力あふれる職員の育成

1) 次期管理者候補の明確化と重点育成

⇒ヘルパーステーション、候補者を二名に絞り、事務作業分担・事務所会議に一人ずつ参加して慣れてもらう。継続中

2) 指導職・管理職の育成を強化

⇒ 役職者を対象としたケース検討力・統率力向上研修を継続。

3) 職員の発想を活かした魅力的なサービスづくり。

⇒ 「あなたの夢叶えます企画」など、現場からの提案が形になる文化が根づいてきた。

4) 全道・全国大会の研究発表継続

⇒計2件発表（全道ヘルパー1件・全国ケア1件）を達成。職員の研究・発信力が着実に向上している。全国大会で優秀賞を取ったことで、他法人より講習の依頼を受ける。

5) 「おかげさま」を合言葉に刀圭会フィロソフィーの実践

⇒ 月例朝礼での共有や日常業務における振り返りに取り入れ、行動指針として定着を図った。

4. 会議

① 職員全体会議（月1回） ② ケース検討会議（月1回）

③ 各委員会会議（月1回） ④ 入居判定会議（月1回）

⑤ 役職者会議（月1回） ⑥ 月例朝礼会（月1回）

⇒ いずれも定期開催を継続し、情報共有や課題の早期発見に活用した。

5. 職員の研修

- ・ 認知症対応研修
- ・ 虐待防止研修
- ・ 感染予防研修
- ・ 口腔ケア研修
- ・ 身体拘束防止研修
- ・ リスクマネジメント研修
- ・ BCP対応研修
- ・ 接遇研修
- ・ ハラスメント研修

⇒ 現場ニーズに即した内容を厳選し、実践に役立つ知識習得を実施した。

【3】2025年度 にれの木拠点 事業報告

2025年度は公益的な取り組みとして認知症カフェやにれっ子の開催、町内花壇清掃等を通じて子供から高齢者や地域で暮らす方々との関わりを深めることができた。また入居者、利用者へ安らげる場が提供できるよう職員一人一人が個々のニーズの把握や目的や方法を明確にすることで満足度を高めることができた。業務効率化、人材確保・育成については合同会議を開催しチームワーク、コミュニケーションの強化を図ることができた。次年度もにれの木理念でもある安心して暮らせる長寿生活を実現するために全力で取り組んでいく。

1. 公益的な取り組みを実施

- 1) 地域行事へ積極的に参加する。
- 2) 他法人、企業との連携を強化して西エリアで地域包括ケアに取り組む。
- 3) 認知症カフェやにれっ子など子供から高齢者に至る集いの場を提供する。

⇒ 町内会花壇清掃の参加して地域住民と繋がりを深めることができた。
⇒ 定期的に認知症カフェを開催し、地域住民との交流や介護相談等で暮らしをサポートすることができた。またにれっ子の開催を通じて子供たちの居場所づくりと学習支援を実践することができた。

2. 入居者、利用者に安らげる場を提供する

- 1) 研修会、勉強会に参加して介護技術や知識を習得する。
- 2) 個々のニーズに合ったサービスを提供する。
- 3) 安心して生活できるための環境を整える。

⇒ 研修会、勉強会に参加して介護技術だけでなく緊急時の応急処置や対応などの技術や知識を習得することができた。
⇒ 月1回の他に状況に応じてケース会議を開催して入居者、利用者個々に合わせたサービスを検証して実行することができた。

3. 業務の効率化と人材確保・育成

- 1) 管理職、監督職を育成して指揮命令系統を確立する。
- 2) 人事考課制度や個人面談を通して個人の目標や仕事の目的を明確にして働く意欲の維持・向上を図る。

3) 介護ロボットや ICT 導入による業務負担の軽減と効率化。

- ⇒ 補助金を活用しWi-Fi環境の整備、タブレットを活用して業務負担の軽減を図ることができた。
- ⇒ 職員不足の際、事業所間で助勤体制を組み、他事業所の課題を理解し施設全体の課題として職員個々が受け止め、欠員補充とオールラウンド思考の職員育成に繋げることができた。

4. 会議

- | | |
|------------------|----------------|
| ① 職員全体会議（月1回） | ② ケース検討会議（月1回） |
| ③ 各委員会会議（月1回） | ④ 運営推進会議（年6回） |
| ⑤ 入居優先度判定会議（年3回） | ⑥ 役職者会議（月1回） |
| ⑦ 認知症カフェえるむ（適宜） | |
- ：各種会議を定期的に開催し職員間の情報交換・共有を行った。

5. 職員の研修

- ・看取り研修
- ・身体拘束・虐待防止に関する研修
- ・褥瘡予防に関する研修会
- ・口腔ケアに関する研修会
- ・接遇に関する研修
- ・感染予防に関する研修
- ・誤薬防止に関する研修
- ・リスクマネジメントに関する研修

【4】2025年度 ななかまど拠点 事業報告

昨年度は「未来志向」を掲げて将来を見据えた環境作りの土台を構築した。生産性向上への意識付け、ICT 導入準備に取り組んだ。他施設の視察や関係団体の研修、業者によるデモを通じて多くの知識や体験を得ることができた。今年度を未来への新たなチャレンジとして実践を通じた結果を生産性向上、施設の魅力として根付かせる。

1. 経営の安定化

(1) 特養、ショート、多機能の昨年比プラス3名/月を目指す

2025年も月プラス3名を目指したが結果は月平均3.5名マイナスと目標を達成することができなかった。9月、12月と感染症の拡大にて利用制限を強いられ大きなマイナスとなった。

→研修、啓もう活動にて職員の感染対策意識を持続させる

(2) 待機者情報の増加

多機能部門の紹介が減少している。サービス付高齢者住宅等の増加で利用者の選択肢が増えた。特養待機者情報を在宅サービス利用へつなげ在宅から入所へ円滑に移行する

→利用者、関係機関との情報共有

2. 質の高いサービス提供

(1) 良質な人材の育成

新たなチャレンジを通じて職員同士の結束を強め、効果の検証、気付きによる新たなシステム開発など積極的な関与を実践することで個々の能力、人間性を高める

→部外研修など今後も継続、ICTによる人材教育

3. 地域包括ケアの深化

地域行事への参加

新年会、夏祭り手伝いなど頻繁に参加して町内会員との親睦、連携を強化した。

→今後も継続

4. 会議

- | | |
|------------------|-----------------|
| ① 職員全体会議（月1回） | ② ケース検討会議（月1回） |
| ③ 各委員会会議（月1回） | ④ 運営推進会議（年6回） |
| ⑤ 入居優先度判定会議（年3回） | ⑥ 役職者会議（月1回） |
| ⑦ 生産性向上委員会（月1回） | ⑧ 感染症対策会議（定期開催） |

：各種会議を定期的に開催し職員間の情報交換・共有を行った。

5. 職員の研修

- ・ 看取り研修
- ・ 虐待防止に関する研修
- ・ 褥瘡予防に関する研修会
- ・ 口腔ケアに関する研修会
- ・ 感染予防研修
- ・ 誤薬防止に関する研修
- ・ リスクマネジメント研修
- ・ ICT実践研修

【5】2025年度 りんどう拠点 事業報告

デイサービスを休止し、同種事業の統合、欠員部門への職員配置、施設全体の業務整理と環境改善に取り組んだ。事業の統合では移行した拠点の利用率は増加したが、施設として休止分の補填までは至っていない。りんどう拠点の離職数が法人全体の37%から30%へと減少、環境改善の効果が見え始めた。しかし、収入面では、目標の90%程度と低迷が続いた。

1. 経営の安定化

(1) 事業所全体の利用率95%以上を維持する。

- ・利用率、収入と大幅に目標を下回る

- 看護小規模多機能の紹介が減少。10件/年以上の登録が5名と半減、新規紹介へ向けて看護小規模多機能の機能性を関係機関へ再周知する

- 喀痰吸引者の受け入れなど医療ニーズの高い利用者の受入れを増加させる

(2) 利用者情報(申込数)の拡充

- ・80人前後で推移

- 複合施設の特性を広くアピールすることで特養待機者を増やし、利用に結び付く可能性が高い情報を増加させる

2. 医療サポートの強化

(1) 看護職員の確保

一般での常勤看護師の確保が難航している。基準上、必要数は派遣や応援など民間紹介業者に頼らざるを得ない。

- 法人独自の求人活動や魅力発信の継続、一般採用者へのインセンティブ制度の創設

- 職員紹介、病院退職者の異動を増加させる

3. 地域包括ケアの深化

地域行事への参画、運営推進会議への町内会役員の協力にて地域の意見や要望、悩みを直に聞き取る機会が増えた。地域と施設の距離が近付いていることを実感している。

4. 会議

- | | |
|-------------------|-----------------|
| ① 職員全体会議 (月1回) | ② ケース検討会議 (月1回) |
| ③ 各委員会会議 (月1回) | ④ 運営推進会議 (年6回) |
| ⑤ 入居優先度判定会議 (年3回) | ⑥ 役職者会議 (月1回) |
| ⑦ 生産性向上員会 (月1回) | ⑧ 感染対策会議 (定期) |

：各種会議を定期的に行い職員間の情報交換・共有を行った。

5. 職員の研修

- ・ 看取り研修
- ・ 虐待防止に関する研修
- ・ 褥瘡予防に関する研修会
- ・ 口腔ケアに関する研修会
- ・ 感染予防に関する研修
- ・ 誤薬防止に関する研修
- ・ リスクマネジメント研修
- ・ ICT実践研修

